

オーバー65パワーが福岡を変える



この度の東日本大震災によって被害を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。また、被災地域にご家族やご友人がいらっしゃる皆さまのご心配、ご心痛は並々ならぬものとお察し申し上げます。一日も早い復旧復興のために、福岡もできる限りのことをしていくべき時と痛感しております。

福岡県では現在、「福岡県70歳現役社会づくり研究会」として、意欲のある方には65歳定年制にとらわれずに社会で活躍いただける仕組みづくりを推進しています。高齢者就業問題の第一人者、慶應義塾大学の清家塾長を顧問に迎え、特区申請も視野に入れた取り組みで、福岡の元気なオーバー65パワーに日々圧倒される私も大いに賛同いたしております。

この構想でいう「現役」という言葉は積極的な就業に焦点を置いていますが、私はもう少し広い意味合いで捉えてはどうかと思います。なんととってもオーバー65の皆さんは戦後の復興の立役者。日本の最も辛い時代を知り、そこから繁栄の階段を駆け上がったいく原動力として歯を食いしばって働いてきてくださった方々です。その豊かな経験と知恵を活かす場を

会社や仕事だけに絞りこまず、もっと身近な地域社会を活躍の場にしていただくことも考えていかなければなりません。

現在の社会が抱える構造的な欠点は、従来の家族制度の崩壊に端を発していると思います。世代間同居が当然だった時代は、壮年期の働き手が外に出ている間、おじいちゃんおばあちゃんが子どもの面倒を見てくれていました。しかし現代では核家族化が進み、育児

月刊 脊 振

福岡県議会議員
(南区選出)
ひぐち明
県政活動報告誌



の負担が母親ひとりに集中する家庭が増えていきます。独りで何もかもを抱え込み、追い詰められてパニックになった母親が幼児虐待に走る痛ましいケースも多く報じられています。

生涯現役でいていただくために

この事態を解決したいと思っても、すぐに核家族を解消して3世代同居を始められる家庭ばかりではありません。しかし、地域のひとと人のつながりが活性化すれば、育児の問題をはじめ、非行少年の抑止、独居老人、街頭犯罪の抑止等、現代という時代が抱える様々な社会問題を解決することに繋がるのではないのでしょうか。

その参加の形として、例えば地元「地」を直接育むべく、福岡の各所に点在する休眠農地をご活用いただければ、人手不足のためにならなく無人の空き地になっていた場所に毎日誰かが訪れることになり、子ども達も、毎日の通学中や帰宅中に、通りかかるたびに誰かがいてくれる安心感と、少しずつ実っていく収穫までの日々を見守る幸福感を感じ始めるでしょう。

農業以外にも、各々の専門的な知識を活かし、街おこしや街作りなどのプロジェクトにアドバイザーとしてご参加いただいくような地域貢献も望まれます。災害で痛感するのは、密接につながりあい、助け合う地域社会の重要性です。これから日本が復興していくためには、日本の苦しいときを知る、酸いも甘いもかみ分けた経験豊富な方々のお力が必要です。きっと地域活性化のすばらしい担い手として大活躍してくださることでしょう。

退職後も社会の一員として力を発揮し、人とつながり、自身の努力によって何かが実っていく手応えを感じて生きていける社会。私が思い描く「70歳現役社会」はそんな社会です。そんな地域社会を実現すべく、私も力いっぱい行動していきたいと思えます。

ひぐち明からのお知らせ

ひぐち明の8年越しの挑戦、那珂川水上バス構想がついに実現しました。観光スポットの多いウォーターフロントをめぐる「福博みなとであい船」です。ぜひご乗船下さい。